上林暁文学のふるさと

大方あかつき館報

あかつき

第18号
2012年3月発行

平成23年度 企画展「中村中学校」より

上林暁文学館協議会委員長　野並　浩

◆上林暁さんという人物を初めて知り感動しました。　千葉市（男性）

◆すばらしい会館ですね、上林さんの業績に改めて感動の一言とても良かった。　越知町（女性）

◆以前、杉並区天沼に住んでいて御名前だけ知っていました。読んでみようと思います。　高知市（夫妻）

◆私の好きな作家宮本輝にも影響を与えたと知って驚いたがうれしい。　黒潮町（女性）

◆なんて土地をゼイタクに使ったステキナ所ゆっくりしにまた、来たいです。　滋賀県（女性）

◆私の母は従兄の上林さんをイワキ兄さんと呼んで、親しく話してくれました。当時の家族は絆ががっちりしていた。現在は見なおすヒントがあります。　黒潮町（女性）

◆大方町生まれの中村育ち。何故か懐かしいものを感じて拝見しました。　東京都（男性）

◆暁の文体の美しさを再確認しました。　川崎市（男性）

◆ゆっくりと時間を過ごさせてもらいました。改めて「暁」の作品を読み進めてみようと思います。　高知市（男性）

◆父が大好きなここに来れてうれしかった。　徳島県（男性）

以上は文学館に備え付けの記帳に記載された昨年度の企画展の感想です。紹介させていただきました。改めて読むと本当に「暁」の魅力が伝わってきます。

平成24年度 企画展「ふるさと」

今回の企画展は、上林暁がこよなく愛した〝ふるさと〟をテーマに取り上げました。

上林さんが書かれた生原稿（二枚）も展示しています。この文章はNHK大阪放送局から〝私の故郷〟と題して放送されたようです。

昭和29年には、『ふるさとの海』（上林暁全集14巻収蔵）と題して、上林さんが子供のころ近所の仲間と無我夢中になって戯れた、幼い日々の懐かしい思い出も記されています。ところであかつき館の入り口のロビーに掲げられている「ふるさと

は海光をる」山沖春欄さん（黒潮町早咲出身）の書画『海』と共にご覧ください。

「大原富枝文学館」と「いの町立図書館」紀行

上林暁文学館協議会委員　松本　春子

1月20日「あかつき文学館協議会」と「図書館協議会」の合同研修会で「大原富枝文学館」と「いの町立図書館」を訪問した。

往路土佐市の高速道路で乗用車の衝突事故があり、交通渋滞に出会うハプニングあり。大豊インターで高速道路を降りて、高岡郡本山町にある「大原富枝文学館」へ向かった。車は吉野川の支流の汗見川に沿って、山道をくねくねと走った。

本山町の街並みを行くと、元裁判所だったという瀟洒な白い建物の文学館に着いた。

大原富枝先生は87年の生涯に1100を超える作品を残されたが、その代表作「婉という女」は、野中兼山の四女野中婉の生涯を描いた作品である。野中兼山失脚後、宿毛に幽閉された一族と、そこから解き放された後の婉の生涯を、かつて若き岩下志摩が映画で熱演したのも印象深い。

大切に保管されている「婉という女」の自筆の原稿を、今回見せていただく機会を得た。原稿用紙224枚の分厚い原稿は、大原富枝先生の息遣いが伝わってくるようで私の心は感動で震えた。

文学館のこじんまりとした展示室には生誕百周年第一期企画展「生誕から療養時代まで」のご本人の写真、原稿、古里本山町の風景、恋人からのハガキや子供のころの成績表まで展示されていて、大原文学の原点を見るようで、とても興味深かった。

先生の絶筆となった「草を褥（しとね）に」（牧野富太郎をその妻の眼で描いた作品）を雑誌に連載途中で87歳の生涯を閉じられた。「書くことは生きること」と言い切った大原富枝先生の文学への強い信念と執念は、我が郷土の作家上林暁先生と相通じるものがあると思います。

「大原富枝文学館」を後にして、帰路「いの町立図書館」を訪問した。

明るく広い館内を見せていただき、図書館の取り組みなどを職員の方からお聞きした。

月一回のミニコンサート、読書ボランティア、移動図書館など……。

「あかつき館」の設立が1998年4月、いの町立図書館も同年の12月とのこと。設立にあたっては、広く町民の声を取り入れることを第一にしたという話しが印象深かった。

大原富枝文学館

帰途は、車中楽しい会話が弾み、有意義な一日研修紀行であった。

春野町の図書館関係者が文学館来館

高知市春野町の図書館協議会の関係者20名の方が、昨年12月19日に文学館にバスで来館。

文学館では常設展示や企画展を巡回。中でも入り口に置かれている『ブロンズの首』（これをモデルにした作品で、上林暁は第一回川端康成文学賞を受賞）には、大きな関心を寄せていました。見学の場を松原に移して、『上林暁生誕の地』（川端康成書）や『梢に咲いてゐる花よりも地に散っていゐる花を美しいと思ふ』（上林暁書）。このお二人の碑を前に熱心にご覧なっていたのが印象的でした。

豊かな環境に囲まれた館外の周辺を散策されるなど、くつろいだ一時を過ごしてまいりました。お昼近くになり帰途につく一行の皆様をお見送りしたことでした。

春野図書館協議会の皆様

その他

大型紙芝居「故郷を愛し続けた努力の作家上林暁」制作（おはなし玉手箱）が出来ました。

今後町内、外での上演を通じて、上林さんのことを広く知ってもらいたいと思います。

上演の依頼をお待ちしています。

大型紙芝居

平成24年度 文学館関係行事予定

企画展

ふるさと

とき　平成24年6月～3月

ところ　あかつき館内上林暁文学館

文学講座11月～12月

第一講座　植田馨

上林暁と過ぎゆきの歌

第二講座　（未定）

平成23年度の催し風景

植田馨文学碑除幕式

2012年3月11日（日）に文学の道づくり事業の一環として植田馨文学碑の除幕式がありました。県内外から沢山の方が出席され、上林暁顕彰会、黒潮町教育委員会の代表による除幕が行われました。

「上林暁文学講座」開催

2011年11月20日（日）に上林暁文学講座「現在に生きる幸徳秋水」を講師に「北沢保さん」をお迎えして、大方あかつき館で開催しました。

「光の切り絵展・一画二驚展」を開催

2011年10月15日（土）16日（日）に光の切り絵展・一画二驚展を大方あかつき館で開催しました。

あかつき館の壁や芝生に光の絵……

鯨が雄大に泳ぐ幻想的な海底、夜の闇を走るかわいい銀河鉄道、

紅葉の木の側にたたずむ光の人たち……

そして銀河鉄道に乗る人、光の人と手をつなぐ人、木の実を拾う人、光と人が一体となった夜でした。

本当に沢山の方にご来場いただきました……

大方あかつき館
〒789-1931 高知県幡多郡黒潮町入野6931-3
TEL:0880-43-2110 FAX:0880-43-0222